

鳥インフルエンザ

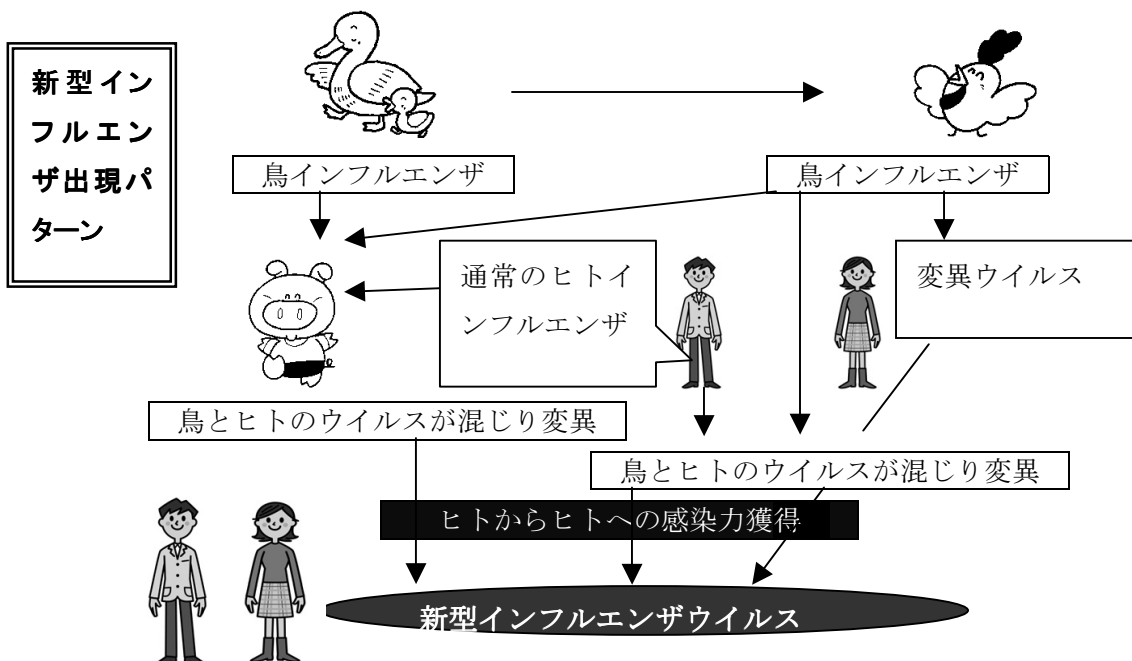
Q:私の家で小鳥を飼っています。鳥インフルエンザにかかりますか？

A:鳥インフルエンザは鳥などに感染しますが、ペットとして家庭などで飼われている小鳥が感染する可能性は低いです。鳥インフルエンザは感染した鳥の排泄物で感染していくため、小鳥に触れた後には手洗いやうがいをし、小鳥の生活環境を清潔に整えてあげることが重要です。小鳥の健康状態に異常があれば獣医さんに相談し、飼い主に異常があれば直ちに医療機関を受診して下さい。

はじめに

日本では79年ぶりに山口県の採卵鶏農場で「高病原性鳥インフルエンザ」が発生しましたが、これまでに、「鳥インフルエンザ」は、香港、中国、米国、ドイツ、韓国等世界各国で発生しています。「鳥インフルエンザ」は大きな分類でいえばA型のインフルエンザに属するものです。しかし、ヒトのウイルスと全く同じものではありません。そのため「鳥インフルエンザ」は、ヒトに感染しないと思われていましたが、1997年に香港で初めてトリからヒトへの感染が生じました。香港政府の迅速な処置によりヒトからヒトへ感染する遺伝子変異の発生は防止されました。

ヒトまたはブタが、鳥インフルエンザウイルスとヒトのインフルエンザウイルスの2つのインフルエンザウイルスが同時に感染した場合、その体内で遺伝子組換えがおこり、新型のインフルエンザウイルスになることがあります。新型インフルエンザに対する有効なワクチンをすぐに用意することができないため、ヒトからヒトへの感染が容易になった場合、世界的に大流行が起きる危険性があります。このためWHOをはじめ各国の保健機関は監視体制を強めています。日本では、ヒトへの感染を未然に防ぐ対策として複数の研究機関による「高病原性鳥インフルエンザ対策に関する緊急調査研究」が共同研究として平成16年1月末に開始されました。



鳥インフルエンザとは？

鳥インフルエンザとは、鳥類がインフルエンザウイルスに感染して起こる病気です。鳥インフルエンザに感染した鳥のうち病原性が強くでたものを「高病原性鳥インフルエンザ」といいます。

高病原性鳥インフルエンザに感染したトリの症状は？

感染すると、鶏冠（とさか）・肉垂が紫色になる（チアノーゼ）、出血、神経症状（首曲がり、元気消失等）、消化器症状（下痢、食欲減退等）等の全身症状をおこします。また、大量に死亡することもまれではありません。

高病原性鳥インフルエンザにかかるのはどのような動物？

色々な種類の鳥に感染することが知られています。特に感染しやすい種類は、鶏、アヒル、七面鳥が知られています。

鳥－鳥の感染経路は？

感染した鳥の排泄物や分泌物、それらに汚染された土壌などの吸入や摂取により鳥から鳥へ簡単に感染します。特に野生のカモなどの水鳥は、ウイルスに感染しても無症状あるいは軽症で経過し、低病原性のウイルスを運ぶ自然宿主であると考えられてきましたが、これらの水鳥からは、高病原性のウイルスが分離されたとの報告はありません。感染予防のためには、野鳥との接触後は手洗いなどを行います。

高病原性鳥インフルエンザに感染した鳥小屋等の消毒方法は？

消毒薬には、逆性石鹼、塩素系など様々な種類がありますが、一般にインフルエンザウイルスはこれらの消毒薬で容易に死滅するウイルスです。

（現在、よく使用されている消毒液）

- ・ 成分名：塩化ベンザルコニウム
- ・ 方法：噴霧器で鳥小屋全体にかけてください。特に鶏舎入口は、念入りにして下さい。天気の良い日を選び定期的の実施するように心掛けて下さい。発生農場の消毒は、一週間で3回以上消毒をすることとされています。

どのように人に感染するのですか？

ヒトが鳥インフルエンザに感染するのは、ウイルスに感染した鳥と近距離で接触した場合や内蔵や排泄物に接触したことが多いと考えられています。

鶏肉や鶏卵を食べて感染することはありますか？

これまで食品として鶏肉や鶏卵を食べて人に感染した報告はありません。高病原性鳥インフルエンザは家畜伝染病（法定伝染病）であるため、汚染された食品が市場に出回ることは少な

いはずです。万が一市場に出回った場合、インフルエンザウイルスは酸に弱く、胃の中に入れて胃酸で不活化されることや人間の腸管には鳥インフルエンザのリセプターがないため感染することはないと考えられています。WHOでは一般的な予防法として、食品の中心温度を70℃に達するように加熱することを推奨しています。

ヒトに感染した場合の症状は？

結膜炎や呼吸器症状も見られます。発熱、咳などヒトの一般的なインフルエンザと同様なものから多臓器不全に至る重症なものまでさまざまな症状があります。死亡の主な原因は肺炎でした。

どのような検査がありますか？

高病原性鳥インフルエンザは基本的にA型インフルエンザであり、通常のインフルエンザの迅速診断キットで検出可能であると考えられます。しかしながら、感度はもともと70から90%であり、感染していても陰性である場合があります。迅速診断キットによってA型インフルエンザが陰性であっても他の感染症に関する所見がはっきりしない場合、または臨床経過、疫学的関連性により高病原性鳥インフルエンザが強く疑われる場合には、出来るだけ再検することが推奨されます。

製品名	販売メーカー	A・B鑑別可否	所要時間	有効期間
ラピッドビューインフルエンザA/B	住友バイオメディカル	不可	10分	24ヶ月
エスプライン インフルエンザA&B-N	富士レビオ	可	15分	15ヶ月
キャピリア FluA, B	日本ベクトン・ディッキンソン	可	15分	12ヶ月
クイックS-インフルA・B「生研」	デンカ生研	可	15分	16ヶ月
スタットマーク インフルエンザA/B	カイノス	可	15分	6ヶ月
ディレクティジェン FluA+B	日本ベクトン・ディッキンソン	可	15分	6ヶ月
ポクテムインフルエンザA/B	三共=シスメックス	可	20分	12ヶ月
ラピッドテスト FLU II	第一化学薬品	可	5~15分	10ヶ月

高病原性鳥インフルエンザが疑われる患者に対する医療機関での準備は？

対策

- ・ 通常の呼吸器感染症に対する院内感染対策を基本とします。
- ・ 出来るだけ待合室にマスクを常備し、速乾性の手指消毒薬および使い捨て紙タオル等を設置します。

- ・ 咳等呼吸器症状を伴う患者はマスクの装着、さらに手指等からの接触による接触によるウイルス感染の拡大を防止するため、流水・石鹼による手洗いの実施を励行します。

消毒薬

通常の消毒用エタノールや次亜塩素酸ナトリウム等の消毒薬でよいといわれています。

国内ではじめて鳥インフルエンザに感染が確認されたことについて

国立感染症研究所によれば、平成16年2月に京都府で高病原性鳥インフルエンザが発生した際に、防疫作業には約7000人が作業に従事しました。そのうち血清抗体価調査の結果、元従業員1人はウイルスに感染、別の元従業員3人と京都府職員1人の計4人は感染した可能性が高いという結果となりました。5人とも高病原性鳥インフルエンザには発症しておらず、今後も発症のおそれや他に感染させる可能性もないことから、公衆衛生上、問題はないと考えられています。元従業員4人は、京都府が防疫作業を始める前に個人防護具を着用せずに作業し、府職員は、緊急の初期調査に入った際、着用していたマスクは高性能の医療用（N95）ではなく、抗インフルエンザウイルス薬（リン酸オセルタミビル）の予防投与も受けていませんでした。このため、鶏の糞に交じる大量のウイルスにさらされ、接触したり吸い込んだりした可能性があります。一方、事前に抗インフルエンザウイルス薬を予防投薬し、N95マスクを着用させた作業従事者からは、感染者は出ておらず、厚生労働省や国立感染症研究所ではこれらの対策が有効であった、と結論付けています。

<参考資料>

- (1) 厚生労働省：「高病原性鳥インフルエンザ」「鳥インフルエンザに関する情報」
<http://www.mhlw.go.jp/>
- (2) 国立感染症研究所 感染症情報センター：「鳥インフルエンザに関するQ&A」
<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
- (3) 動物衛生研究所：「高病原性鳥インフルエンザ」
<http://niah.naro.affrc.go.jp/index-j.html>